

みんなでテーブルを囲める幸せが身に染みる

小池徹平

City シティセレクション
Selection

「なんで僕なんやろ(笑)」。映画「ホームレス中学生」の主人公として、原作者・田村裕さんから熱望された小池徹平さん。「初めは戸惑いましたが、“中学生”という作り込みはせず、小池ありのままやりました」

“ホームレス”という特殊な設定だが、物語は今の私たちが忘れかけている温かさを思い出させる。「ウチのメシ食ってけよ、みたいな大阪らしい人情味は僕も懐かしかった。東京に来てそんなないんで(笑)。近所の人や見知らぬ人、先生や兄弟の優しさで裕少年が成長していく温かい作品です」。人懐っこい笑顔に時折交ざる大阪弁で、場が和む。

段ボールや雑草で飢えをしのぐシーンもあるが、「ご飯そのものより、“兄弟そろってテーブルを囲んで”食事できるありがたみを忘れてるなと身に染みました」。彼をとりまく人々の中、とりわけ兄姉（西野亮廣・池脇千鶴）が魅力的だ。彼ら自身も関西出身だけあり、絶妙なコンビネーション。「頼れる兄ちゃんと、不安定でコワイけど優しい姉ちゃん。アホって言いながらおにぎりを作ってくれたり、素直じゃないのが姉ちゃんのよさ。カメラが回ってないときもそのままでした。姉ちゃんに腹をけられるシーンは、池脇さんが本気でくれたので、初めて女優さんに腹が立ちました(笑)。僕自身は姉がいないんで、ああいう姉ちゃんおったらええなって思いました」

物理的な衣食住はどん底でも、温かい人たちに囲まれていれば、ホーム＝心のよりどころは失わない。順風満帆に見える小池さんにも、ピンチはたくさんあったそうだ。「オーディションも落ちまくって仕事が全然ないときもありました。マネジャ

ーに大阪帰りや、なんて言われて…。心の支えになったのはWaTの存在。それと何でも話せる友達はこのホームです」

今は、共演の先輩たちから刺激を受ける毎日。「ベテランでもまだまだ勉強されてる。めっちゃストイックや、オレはなんやねん、とあらためて自分の甘さに気付かされる」。実は社会人一年生と同年代。「同世代は分からんことだらけだと思うけど、必死にやっていたら誰かが見てくれてると思うんで、いやなことがあっても、あきらめずに続けることが大事かなと思います。…って僕、大丈夫ですかね？ エラソーにと言われるのもイヤやしなあ(笑)」

プロフィール

1986年1月5日、大阪生まれ。B型。2001年、JUNONスーパーボーイコンテストでグランプリ受賞。ドラマ「天体観測」でデビュー。その後「ドラゴン桜」「ごくせん」「ウォーターボーイズ2」「シバトラ」などのドラマのほか、映画「ラブ☆コン」「KIDS」などに出演。またウエンツ瑛士と「WaT」を結成し、CDシングル「僕のキモチ」がヒット、ライブなど音楽でも活躍中。映画「ホームレス中学生」は10月25日(土)から全国東宝系にて公開。WaTのニューシングル「36°C」が10月29日(水)発売